

利用成果報告書

- 1 課題番号 R5-D39
- 2 報告者 入江 直樹 東京大学大学院理学系研究科
- 3 利用区分 成果公開有償利用
- 4 利用課題名 母親細胞の移入頻度に関する因子の探索
- 5 使用装置名 FACS Aria II, IIIu, III セルソーター
- 6 利用期間 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 5年 9月 28日
- 7 利用成果・実績の概要 免疫を活性を強める因子としてLPSを妊娠マウスに投与し、胎児の母親細胞の頻度の影響を調べた。LPS投与群では想定していた通り発生異常を示す個体が多く生じ、免疫系の過剰な活性化が起こっていることが示唆された。そこでLPS投与群(そのうち正常発生した胎仔)と対照群(PBS)を比較することで、母由来細胞の数への影響について調べたところ、胎児の脾臓・胸腺・肝臓のいずれの臓器でも対照群と検出される頻度に統計学的な差はないことが確認できた。検出感度の問題である可能性もありうるが、炎症の影響により移入する母由来細胞の数に大きな影響が生じないように制御する仕組みが存在しているのかもしれないことがみえてきた。
- 8 社会・経済への波及効果 母親の免疫の活性化は、胎仔における母由来細胞の数、さらには健康に大きな影響を与えにくいのかもしれないことを示した。
- 9 学会等における口頭・ポスター発表 該当無し
- 10 学会誌・雑誌等における論文掲載 該当無し